**聖霊降臨節第６主日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2023年7月2日**

**「祝福にあずからせるため」**

**創世記12章3節**

**12:3 あなたを祝福する人をわたしは祝福し／あなたを呪う者をわたしは呪う。地上の氏族はすべて／あなたによって祝福に入る。」**

**使徒言行録3章11～26節**

 **3:11 さて、その男がペトロとヨハネに付きまとっていると、民衆は皆非常に驚いて、「ソロモンの回廊」と呼ばれる所にいる彼らの方へ、一斉に集まって来た。**

 **3:12 これを見たペトロは、民衆に言った。「イスラエルの人たち、なぜこのことに驚くのですか。また、わたしたちがまるで自分の力や信心によって、この人を歩かせたかのように、なぜ、わたしたちを見つめるのですか。**

 **3:13 アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、わたしたちの先祖の神は、その僕イエスに栄光をお与えになりました。ところが、あなたがたはこのイエスを引き渡し、ピラトが釈放しようと決めていたのに、その面前でこの方を拒みました。**

 **3:14 聖なる正しい方を拒んで、人殺しの男を赦すように要求したのです。**

 **3:15 あなたがたは、命への導き手である方を殺してしまいましたが、神はこの方を死者の中から復活させてくださいました。わたしたちは、このことの証人です。**

 **3:16 あなたがたの見て知っているこの人を、イエスの名が強くしました。それは、その名を信じる信仰によるものです。イエスによる信仰が、あなたがた一同の前でこの人を完全にいやしたのです。**

 **3:17 ところで、兄弟たち、あなたがたがあんなことをしてしまったのは、指導者たちと同様に無知のためであったと、わたしには分かっています。**

 **3:18 しかし、神はすべての預言者の口を通して予告しておられたメシアの苦しみを、このようにして実現なさったのです。**

 **3:19 だから、自分の罪が消し去られるように、悔い改めて立ち帰りなさい。**

 **3:20 こうして、主のもとから慰めの時が訪れ、主はあなたがたのために前もって決めておられた、メシアであるイエスを遣わしてくださるのです。**

 **3:21 このイエスは、神が聖なる預言者たちの口を通して昔から語られた、万物が新しくなるその時まで、必ず天にとどまることになっています。**

 **3:22 モーセは言いました。『あなたがたの神である主は、あなたがたの同胞の中から、わたしのような預言者をあなたがたのために立てられる。彼が語りかけることには、何でも聞き従え。**

 **3:23 この預言者に耳を傾けない者は皆、民の中から滅ぼし絶やされる。』**

 **3:24 預言者は皆、サムエルをはじめその後に預言した者も、今の時について告げています。**

 **3:25 あなたがたは預言者の子孫であり、神があなたがたの先祖と結ばれた契約の子です。『地上のすべての民族は、あなたから生まれる者によって祝福を受ける』と、神はアブラハムに言われました。**

 **3:26 それで、神は御自分の僕を立て、まず、あなたがたのもとに遣わしてくださったのです。それは、あなたがた一人一人を悪から離れさせ、その祝福にあずからせるためでした。」**

**私たちは主に招かれて共に守るこの礼拝で、使徒言行録から御言葉を聞いています。使徒言行録はペンテコステにイエス様の約束の言葉どおりに聖霊が降ってこの地上に教会が誕生し、教会は御言葉を宣べ伝え、苦難や迫害に合いながらもその度に教会全体で祈りを捧げ、神様がその祈りを聞いてくださり必要を満たして下さり成長させてくださっているその姿が描かれています。それは私たちに教会とは何かということを改めて考えさせてくれる御言葉なのです。**

**今、私たち諏訪教会が教会とは何かということを御言葉から聞いていくことはとても大切なことだと思います。牧師の交代という大きな出来事を迎えた私たちだからこそ、教会とは何か、どういうところなのか、何をするところなのか、そして教会になくてならないものは何か、それはこの教会に連なる私たち一人一人が心にとめなければならないことだと思います。**

**先週は牧師就任式でした。主の祝福に満ちた就任式を迎えることができて心から感謝しています。就任式までというのはいわば婚約期間です。就任式という結婚式でお互いに神と教会との前で謹んで誓約をしました。この誓約は決して忘れてはいけないものです。しっかりと心に留めて共に新しい歩みを本格的に始めていきましょう。**

**「美しい門」の傍で生まれつき足の不自由な男性が物乞いをしていました。その男性の傍を通りかかったペトロとヨハネは彼をじっと見て「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」（6節）と言って手を取って立ち上がらせたところ、彼は歩き回り踊りまわって神様を讃美しました。そして、ペトロとヨハネの後をついていって「美しい門」から神殿の中に入って神様を礼拝したのです。**

**驚いたのはその様子を見ていた人たちです。それもそのはず毎日「美しい門」の傍で物乞いをしていた見慣れた男性が自分の足で歩くだけでなく踊りまわって神様を讃美しているのですから。自然と周りに人が集まります。その目はまるでペトロとヨハネが何か自分たちの力で不思議な業を行ったのではないかという興味の目で見つめるのです。**

**その目線に対してペトロが「そうじゃない。私たちの力ではない。イエスの名による信仰が彼を癒したんだ。それはつまりイエス・キリストが彼を癒したんだ」と反論をするのが今日の物語です。ペトロがただそのように反論するだけだったら、12節に続いて16節「あなたがたの見て知っているこの人を、イエスの名が強くしました。それは、その名を信じる信仰によるものです。イエスによる信仰が、あなたがた一同の前でこの人を完全にいやしたのです。」と語ればペトロの反論は終わるのです。でも終わらない。17節以下も続きますし、そもそも話の流れから行くと12節の次は13節14節15節を飛ばして16節に行った方が繋がるのです。間のイエス様の十字架と復活のことはなくても話が繋がります。**

**それは17節以下も一緒です。ペトロは17節以下で語るのです。何を語っているかというと、一言で言うと「イエスはキリスト」ということです。17節から26節で色々難しいことも言っていますが、それを一言でまとめるならば「イエスはキリスト」ということなのです。そう、ペトロがペンテコステの日に聖霊に満たされて語った初めての説教は「イエスはキリスト」ということでした。そして2回目の説教も「イエスはキリスト」ということを彼は力強く語るのです。「イエスはキリスト、救い主である。そのイエスは父なる神から遣わされたお方である。それは旧約聖書の預言者たちが語っている通りである。あなたたちはその救い主を十字架につけて殺したんだ。そしてイエス様は復活して今は天におられやがて再びこの地上にやってこられるんだ。それはあなたたちが悪から離れて祝福に預からせるためなのだ。あなたたちは悔い改めて立ち帰りなさい。神の愛に立ち帰りなさい。」ペトロが大胆に語るこの説教は1回目も2回目も同じような内容です。「イエスはキリスト」イエス様の十字架と復活の愛を語るのです。**

**先ほども言いましたようにイエス様の十字架と復活の愛は語らなくても通じる内容です。反論ですから。語らなくてもいいのです。「足の不自由な男性の足を癒したのは私ではなくイエス様である」と語るだけで良いものを、「そのイエス様は・・・」と十字架と復活の愛を語るのです。それがペトロの説教なのです。どうして語る必要があるのでしょうか。なぜわざわざイエス様の十字架と復活を語らなければいけないのでしょうか。**

**それはどうしても語らないではいられない真実だからです。話さないではいられない確かな事だからです。そして語ることで悔い改めて救われる人が一人でも与えられるように、そこに聖霊が働いて下さりイエス様の十字架と復活が自分事として受け止めて信じて救われる人が一人でも与えられるようにペトロはどうしても語りたいのです。それがペトロがイエス様の使徒として与えられた使命だからです。**

**「1:8 あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」**

**この言葉を与えられた証し人としての使命を今ペトロは果たしているのです。イエス様の十字架と復活の愛、そこにこそ真実の愛があり、そこにこそ真の救いがあるからです。一人でも多く救われてほしい。気づいて欲しい、信じて欲しいとどうしても語らずにはいられないのです。**

**このペトロの語る説教は昔も今も教会が語り続けていることです。教会が最も大切な事として語り続けていること、それがイエス様の十字架と復活の愛なのです。キリスト教会はイエス様の十字架と復活の愛を愚直なまでに語り続けているのです。どんなに時代が変わろうが世の中が変わろうが、どんなに困難があろうが語り続けるのです。それは、そこに救いがあるからです。いやそこにしか救いがないからなのです。だからこそ教会ではペトロが語ったようにイエス・キリストの十字架の復活の愛を愚直なまでに語り続けるのです。イエス様の十字架と復活の出来事が自分の事として受け止めて、悔い改めて神様に立ち返る人が一人でも多く与えられて欲しい、救われた喜びに信仰の喜びに歩んでほしい、その強い願いを込めて教会は語るのです。**

**先週の牧師就任式で牧師への勧告の中でこのような言葉があります。「あなたは、この群れに神のみ言葉をのべ、聖礼典をとり行うために召されました。それゆえに、「自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝え」なさい。」これはとても重い言葉であり、とても大切な言葉です。「主なるキリスト・イエスを宣べ伝え」るのです。イエス様の十字架と復活の愛を宣べ伝えるのです。ペトロが語ったように、代々の教会が大切に語ってきたように、イエス様の十字架と復活の愛を宣べ伝えていくのです。それは決して牧師一人が宣べ伝えていくのではなくて、主によって教会へと招かれている私たち一人一人が十字架と復活の愛によって罪赦されて生かされて歩むことができているその喜びを宣べ伝えていきましょう。感謝と畏れと喜びを持って共にこの諏訪の地でイエス様の十字架と復活の愛を宣べ伝えていきましょう。**